

2020年5月3日 説教「すべての聖徒とともに」

エペソ人への手紙 3章 14～19節

今朝は教会論を記した獄中書簡、エペソ人への手紙から学びます。

1. 天上と地上の家族 (14～15節)

①ひざをかがめ (14) **「こういうわけで、私はひざをかがめて、」** 祈る時の体勢については、定められたことはありません。歩きながらでも祈れるし、炊事をしながら祈ることも可能です。仕事の前後に職場で祈ることもあるでしょう。しかし時には、姿勢を正して祈ることも大切です。詩篇 95 篇には、「来たれ、私たちは伏し拝み、ひれ伏そう。私たちの造られた、主の御前に、ひざまずこう」(6節)とあります。使徒パウロはエペソの教会の人々に、主の教会に連なる者となったことの恵みを明らかにしてきました。今パウロは、ひざをかがめて祈るのです。ことに、異邦人がキリストに導かれていることに驚きながら、主の前にひざまずいているのです。

②主の家族 (15) **「天上と地上で家族と呼ばれるすべてのものの名の元である」**キリストにある家族の中には、すでに天に召されている者達もあります。初代教会の時代には、殉教した者たちもありました。また、地上の教会の一員であり、老いや病などで主のもとに召されていった場合もあったでしょう。使徒パウロは、世界宣教によって、あちらこちらに、教会を設立しました。それぞれの教会には愛する兄弟がいます。地上の兄弟、天上に召された兄弟。今、両者はつながって、主にある家族なのです。その「家族」という呼び名の元である(新共同訳・裏面の①図と御言葉参照)方がいらっしゃる。その方はいわば、親のような方なのです。

③父の前に (15) **「父の前に祈ります。」** その方こそ、父なる神です。創造主であり、すべてを治めておられる御父です。その主の前に、パウロは自らの魂を注ぎ出し (I サムエル 1:15) 祈っているのです。

2. キリストの愛に根ざし (16～17節)

①内なる人を (16) **「どうか父が、その栄光の豊かさに従い、御霊により、力をもって、あなたがたの内なる人を強くしてくださいますように。」** 祈りです。「内なる人を強くしてくださいますように」とある「内なる人」とは、「外なる人」と対比できます。「外なる人」が肉体、行動、表情などとすると、「内なる人」はキリストによって造られた内なる人格 (II コリント 5:17) です。内なる人は人間によっては強められません。その力の源は父なる神の、栄光の豊かさのなかから、生まれて



こういうわけで、私は膝をかがめて、
天と地にあるすべての家族の
「家族」という呼び名の元である
御父の前に祈ります。

①



②



③

くるのです。そして、御霊なる神が取り次いで、私たちの内なる人に霊的力をもたらしてくださるのです。

②キリストの内住 (17)「**こうしてキリストが、あなたがたの信仰によって、あなたがたのうちに住んでくださいますように。**」恵みによって救われた者たちですが (エペソ 2:8,9)、人間の側ができることはキリストを信じる信仰だけです。そして、その信仰によって、キリストは私たちの内に住んでくださるのです。「もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです」(ガラテヤ 2:20)とある通りです。ここまでが第一の祈りです。

③愛を基礎と (17)「**また、愛に根ざし、愛に基礎を置いているあなたがたが、**」第二の祈りは 19 節までつながっていきます。クリスチャンは、何を土台として生きる者でしょうか。キリストご自身ですね。キリストのご存在の本質は「愛」です。アガペー (神の愛) です。その愛を根とし、基礎において生きる者たちこそ、クリスチャンなのです。その愛とは犠牲的で、無私で、見返りを求めない愛です。

3. キリストの愛を知る (18~19 節)

①愛を理解する (18)「**すべての聖徒とともに、その広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解する力を持つようになり**」キリストにある者たちは、アガペーの愛の広さ、長さ、高さ、深さを確かめていくのです。一人ではなく、キリストを慕い求める聖徒と一緒に求めて、それを理解する力を持つようになるのです。

②人知を越えた愛 (19)「**人知をはるかに越えたキリストの愛を知ることができますように。**」キリストの愛、すなわち神の愛 (アガペー) は、人間の知というものはるかに越えたものです。クリスチャンはその愛を知れば知るほどに、信仰が深まっていくのです。それは、キリストの十字架の愛であり、キリストの復活に表れた永遠の命の恵みの福音に結実したものです。この愛を知ることができますように、という祈りこそ、第二の祈りです。

③神の満ち満ちたさまに (19)「**こうして、神ご自身の満ち満ちたさまにまで、あなたがたが満たされますように。**」そして、神ご自身の満ち満ちたご愛が、クリスチャンのうちに投影され、満たされていくようにというのが第三の祈りです。もともと人間は神に似せて造られた存在です (創世記 1:27)。人間の始祖であるアダムとエバは、悪魔の誘惑に応じ、神との約束を破り、墮落しました。しかし、キリストによって救われた者たちは、新しく造られ、主の似姿へと変えられていく可能性を得ました。キリストの愛がクリスチャンうちに宿らされ、霊

的に豊かな者とされていきますように、というのが第三の祈りです。

《結論》

今回も単発的な主題説教です。エペソ人への手紙から学びです。エペソ

は、先日学んだ黙示録の七つの教会への手紙でも出てきたように、小アジアの中心的な町でした。パウロはこの教会に異例にも 3 年余り滞在して伝道牧会にあたったのです。

この書簡においては、冒頭にも記したように、教会が主題となっているのです。「教会はキリストのからだ」(1:23)とあるように、キリストは教会を通して、ご自身のみわざをなそうとされているのです。時折、「〇〇先生の教会」という表現が使われることがあります。ある面ではわかりやすいのですが、原則論からいえば、間違いやすいです。ですから、私たちの地域教会も「姉ヶ崎キリスト教会」です。人間ではなく、キリストをかしらとする教会なのです。

今朝の聖書箇所は祈りです。そして、この祈りは 20~21 節にある祝祷、アーメンをもって閉じられています。さて、ここにある祈りの言葉のなかには、教会が何をなす所なのかが示されています。特に今朝は一つのことに焦点をあてたいと思います。それは、教会においては、キリストの愛を学ぶのだということです。キリストの愛は人知をはるかに越えたものです。だからこそ、それは一人ではなく、「すべての聖徒とともに」理解しようと努めることが教えられているのです。キリストの愛はとてつもなく広く、長く、高く、深いのです。

ですから、裏面の③にあるように、主にある友と共に御言葉を学ぶことは、キリストの愛を学ぶために、大切な一つの方法です。しかし、今日の世界及び日本の教会は、現実に出て共に礼拝をささげることができず、裏面②の教会では、普段その人が座る椅子の上に、写真をおいて礼拝をしています。オンラインの教会もありますね。私たち教会では、数人が教会で礼拝をささげていますが、週報と説教要約を用いて家庭礼拝をしている場合もいくつかあります。そのような場合、見えるかたちでは、同じ空間を共有することはできません。しかし、「すべての聖徒とともに」礼拝をささげているといっても良いでしょう。空間を共有することは最上ですが、今回のような場合だからこそ学べる、キリストの愛の一端があるかもしれません。聖霊なる神が働いてくださって、空間を越え、私たちをキリストの高みへと招いてくださるかもしれません。それこそ、地上の教会ばかりではなく、天上における教会にもつながる家族という意識のなかに、キリストの愛を学ぶチャンスかもしれません。

私たちの内なる人が聖霊により強められて、十字架と復活の福音に現わされたキリストの愛の一端を、この朝に知っていくことができますように。
*祈ります。

栄光 カーボードゥ（ヘブル語）、ドクサ（ギリシャ語）

重いという意味→ 荘重、威厳、光栄を表すように。
人間については、多くの富（創 45:13）、社会的地位の高さや権威（I 歴代 29:28、イザヤ 8:7）、しかし、人間の光栄はもろい。 民数記 22:18

旧約聖書 ほとんどが神について用いられる。
神の尊厳、卓越性、完全性などを表す。
また、神の栄光は、そのみわざと顕現、臨在を通して現れる。
民は出エジプトの時に、神の栄光を見た（出エ 14:18、16:7）
また、神が民を助けにくるという預言では、栄光という語は救いという意味と同義に使われる。（イザヤ 35:1-4）
神の栄光の顕現は、シナイ山でモーセに示された（出エ 24:15-17）

新約聖書 神の栄光はイエス・キリストに結びついている。
イエスは「父のひとり子としての栄光に満ち」（ヨハネ 1:14）。
神の栄光の輝き、神の本質の完全な現れ（ヘブル 1:3）
御子の誕生の時に現われた（ルカ 2:9）
イエスのしるしによって明らかにされた（ヨハネ 11:40、17:4）
最も強く現れるのは十字かた復活を通して（ルカ 24:26、ピリ 2:9-11）
キリストをよみがえらせて彼に栄光を与えられた神（I ペテロ 1:21）
キリストが再臨する時に、主の栄光は完全にあらわれる（マルコ 8:38）